



和光の緑と湧き水だより会報 Verda211号

NPO 法人 和光・緑と湧き水の会は、白子大坂ふれあいの森の会と協同で会報を発行します。

作成:高橋絹世 連絡先 048-462-9912

身近な自然を知って守り伝えよう <http://wako-wakimizu.org/>

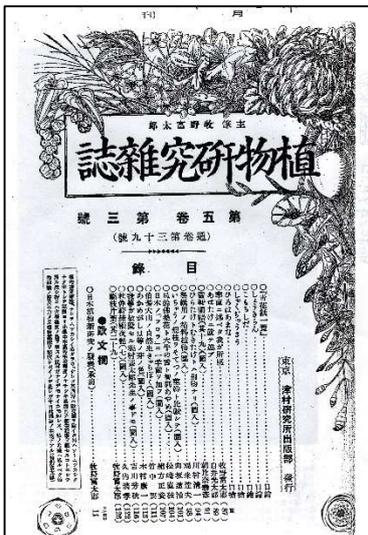
一緒に自然に親しみ、湧き水を守るボランティア活動をしましょう 会員募集

2021年4月～6月の主な予定表 (2021年3月23日発行)

予定	全体会	新倉ふれあいの森	富澤湧水・大坂ふれあいの森 (地域の会に協力して)
4月	樹林公園ヒロハア マナの森・保全観察 理事会 4月13日(火)	17日(第3土) 定期保全タケノコ掘 9時半～ 29日野草観察とタケノコ掘体験	10日(第2土) 富沢湧水保全 9時～ 21日(第3水) 大坂ふれあいの森
5月	6月6日頃身近な水環 境の全国一斉調査	1日(土) 保育園タケノコ掘体験 15日(第3土) 定期保全9時半	8日(第2土) 富沢湧水保全 9時～ 19日(第3水) 大坂ふれあいの森
6月	総会 6月12日(土) 13時～白子コミセン	19日(第3土) 定期保全	12日(第2土) 富澤湧水保全 9時～ 16日(第3水) 大坂ふれあいの森 9時

ヒロハアマナ 新倉村谷中から和光樹林公園と富澤湧水に引き継いできた植物

会報でたびたびお知らせしてきましたが、植物学者牧野富太郎博士の「植物研究雑誌」に掲載された新倉村谷中に広く自生していたヒロハアマナの写真と、移植後の新天地で引き継いで分布を広げ、種の保護を継続的に行っている令和3年の現状を紹介します。



植物研究雑誌 昭和3年3月発行



(雑誌で紹介) 北足立郡新倉村にて 昭和2年3月撮影

90年後の令和3年3月和光樹林公園のヒロハアマナの森で広がり 富沢湧水の斜面でも生育



和光樹林公園の一角でのドングリの森も活かされます

市内で集めたドングリを蒔き、育て、周囲の環境と共生しながら森づくりを行ってきて21年。今では、新しいドングリが芽を出し、それが樹木に成長して森の一員になり持続可能な、安定した森になってきています。森の広さは約4000m²。平地林で、林床は落ち葉がふかふか、地面が柔らかで、高木層、中低木、低木や草地があり、樹林地として環境が良く、樹林公園の名にふさわしい環境となっています。湧き水の会では、さまざま工夫を重ねて森づくりをしてきました。指定管理者が樹林公園パートナーズとなってもドングリの森を残す方針です。



樹木が成長し安定したドングリの森

春の妖精 カタクリの開花

和光市内で開発される地域から当会で市内に移植を行って、各地でカタクリの生育環境を整え分布が広がっています。今年も市内3か所で開花が始まりました。都市部の貴重な春の妖精と呼ばれるカタクリは元気な姿を保っています。3月中旬に撮った3か所のカタクリの様子。

新倉ふれあいの森

大坂ふれあいの森

富沢湧水



新倉ふれあいの森の保全活動と竹の利用について

熊野神社の湧水に竹囲いを作ることになり、新倉ふれあいの森の竹を使いたいという依頼がありました。そこで当会の新倉ふれあいの森を主に保全している方々に相談し、竹を提供してもらうことになり、熊野神社の石山宮司様が新倉ふれあいの森の活動に参加されました。

新倉ふれあいの森は「新倉氷川神社の道路を隔てた向かいにあり、氷川の宮司様も訪ねてこられ、好天にも恵まれさわやかな交流場所となりました。

3月の竹は成長期で、タケノコもこれからの時期で、水分をたくさん含み、竹柵には向きません。この時期竹林は自然の活動が活発になり、竹の切り出しは控え、切り取った古い竹を30本集め利用することになりました。湧水囲いの作成が和光の新倉と白子の交流のきっかけにもなり、これからも続くことと思います。ふるさと和光のささやかな一こまを紹介します。

新倉の森の活動は年間通して続けられ、手入れが行き届いています。まだまだコロナ禍の中、密にならず、あたたかな自然保護を続けていきたいものです。



熊野神社の宮司石山様

